

半歩でも前に



神谷由紀子

名古屋大学大学院工学研究科化学生命工学専攻
[464-8603] 名古屋市千種区不老町
准教授, 博士(薬学).
専門は核酸化学, 生命分子工学.
yukikok@chembio.nagoya-u.ac.jp
<http://www.chembio.nagoya-u.ac.jp/labhp/>

bioanal3/m_kamiya.html

三十代後半に差しかかる頃によく子供を授かり、現在絶賛ママ+研究者として活動中の私は、仕事と育児と家事に翻弄され、目の前のことで精一杯な毎日を過ごしています。

今年はコロナウイルス禍の影響で、例年とは全く異なる新学期が始まりました。授業ではオンライン講義、研究室ではオンラインセミナーなど非接触型のツールを介した研究活動が始まりました。子育て中の私の仕事は、子供を保育園に預けられるかどうか、にかかっているの、保育園の動向が気になる毎日を過ごしていました。先のことを考えて早めに仕事に取り組みたいと思っているものの、毎日の大学滞在時間では思うように進められず、その後のセカンドシフトで消沈することが多い中、さらにコロナウイルス禍で子供が家にずーっといる状況を想像しただけで……。相手が厄介なウイルスだけに、重症化リスクの高い慢性的呼吸器疾患をもつおばあちゃんのヘルプは依頼できません。うちの子は魔の幼児期、『ママきてー、ママ何やってるのー?』と言い続け、私を一人にさせてくれません。もちろん、ごはんの最中にはおとなしく座っていませんし、お風呂いやだ、夜は一人では寝られない、などのあるある行動連発です。コロナ禍で仕事どうなるのだろう、子供どうしよう、と不安要素をかかえている毎日でした。もし子供が預けられなくなった場合には、夫と日替わりで仕事と育児を交代して乗り切ろうなどと話していました。街中ではUber Eatsを頻繁に見かけるようになり、マスクは手に入らず、トイレトーパー類がスーパーから消え(仕事していると買いに出かけられずますます手に入らない)、生活面でも不安が募っていく中、緊急事態宣言が発動され、町がすっかり静かになってしまいました。幸い、出勤制限により通常時よりも夫が自宅にいる日が増えたため、その日は夫に子供を任せて仕事をすることができました。仕事の状況がどうであれお迎えの時間が来たら強制終了、今日のご飯はどうしよう、とか、何も考えなくてよいそんな日がくるなんて、コロナ禍だけドラッキー、とご機嫌になりました。

こんな状況下、そのほかのワーママたちはどのよう

に過ごしているのだろうか、と、ゴールデンウィークには友人家族と流行りのオンラインランチ会を行いました。子育て中の大学教員のママは在宅勤務、子供達が後ろで喧嘩している中、オンラインでの会議や打ち合わせを行っていたそうです。もちろん必要時以外、カメラはオフ、音声はミュートです。一般企業に勤めているママも同様です。どこも働くママは大変でした。いつもどおりにいなくても、半歩でも進めるならいいかという気持ちで割り切ってやっついこうとお互いを励ましあい、前向きな意識になることができました。直接会えなくても、誰かと繋がることは、自分らしくいるため、気づきを得るために、大事だなと思いました。

けれども家事・育児・仕事、頑張りたいのにどれも中途半端だなあ、とどうしようもなく焦ってしまうことがあります。さらにこのコロナ禍で世の中の動きにも振り回されます。時間に制約があることはある程度予想できていましたが、予想以上に育児・家事の段取りに意識をとられ、仕事に関する作業記憶の維持が以前と比べるととても困難になったと感じる日々です。家事をしながらの仕事は難しく、休日にこっそり家を抜け出し大学へ行くこともあります。しばらくすると、ママどこにいるの?と電話が鳴ります。夫はとても協力的ですが、自ら段取りをつけて進めるまで家事力は高くありません。ならば、このコロナ禍のステイホームで夫を鍛えよう!と試みましたが、子供が成長してお手伝いしてくれるようになる日のほうが早そうです。

子育て期間は体力的にも精神的にも大変なところが多くありますが、それにかわるポジティブな面もたくさんあります。なによりも、「ママ大好き~!!」って超笑顔で駆け寄ってくれますから幸せです。子供の成長とともにケアの質が変わっていき、教育面など未知の不安はありますが、幼児の気まぐれに振り回されるのもあと数年なのだと思うと救われますし、寂しくも感じます。もう少し大きくなったら、仕事場で一緒に過ごしたり、将来は一緒にお互いの仕事の話を話合う日が来るといいな、なんて夢を膨らませています。何よりも健康に気を付けてママ研究者ライフを励みつづけたいと思います。